

府高退教通信

NO.229

発行
〒543-0021

大阪市天王寺区東高津町七一十一
府教育会館7F 大阪府高教内
大阪府立高等学校
退職教職員の手

TEL 06-6768-2106
FAX 06-6768-1675

日韓関係のこじれに思うことは

飯田光徳 (日本コリア協会大阪
理事長・府高退教幹事)



日韓関係はこじれにこじれて、「泥仕合」の様相だ。どうもこじれの原因は日本の安倍政権にあるように思える。また、マスコミに煽られた日本国民がまともな判断を失っていることも深刻な問題。実際、韓国への「強い対応」で安倍政権の支持率はアップしているのだ。

のの名のもとに資金（正確には「日本の生産物」と「日本人の役割」）を提供。実は日本財界は大儲けした。韓国は国としての謝罪さえ棚上げにし、様々な請求を放棄。その代わりに経済復興、高度経済成長を手に入れた。

「泥仕合」の解決の糸口はどこにあるのか？私は3つの視点を提示したい。一つは戦争のない平和な北東アジアを構築するための市民社会や地方政治の日韓の連携。二つ目はいくら歴史修正主義者やネットウヨが『嫌韓』を煽っても、日韓の壁を当たり前のように超えている若者たちのK・P O Pファン。そして三つ目は日朝交渉の進展。

この状況を見るとき、安倍の「韓国・ムン憎し」が見え隠れする。その深層に横たわる戦中・戦後史を少し眺めてみよう。

締結した時、日本の首相は佐藤栄作、韓国の大統領はパク・チョンヒ。佐藤はいうまでもなく安倍の大叔父だ。パクはロウソク革命で引きずりおろされ、囚われの身であるパク・クネ前大統領の父だ。パク父はこの経済協力資金で「漢河（ハンガン）の奇跡」と呼ばれる長期の高度成長を勝ち取り不動の地位を得る。植民地時代、パクが学んだ日本軍官学校のあった満州国の経済政策が「漢河（ハンガ

州人脈」と称し深くかわり続けた。ジャーナリストの青木理さんは、「日本の現首相は独裁と深く結びついた政治家の孫、韓国の現大統領はその独裁と民主化運動で闘った元弁護士。残念ながら完全な水と油（毎日新聞）」という。ムン大統領は、日韓保守層が築き、半世紀以上続けてきた「妥協」を底から攪拌してきた「妥協」を底から攪拌してきた。安倍には許しがたい暴挙をムンとその背後の市

安倍の私怨に付き合わされるのはまっぴらだ。政治を変え、北東アジアとまともに向き合えないリーダーに退場いただくことも重要だが、しっかりと歴史に向き合う姿勢を持った民衆のネットワークがそれ以上に重要か。この続きは府高退教セミナーで…。



嫌韓報道に思う

浅海文雄 (教育センター附属)

大学からの友人が、漱石『こころ』の「友人K」は韓国コリアのことだ、と言うので、早速『こころ』を再読したが、なるほど、そのように思えてくる。

気になり、手がかりを求め、漱石の日記にあたってみた。しかし、韓国併合の年は、大患のため病床日誌だ。ただ、前年に次のようにあった。

「曇。韓国観光団百余名来る。諸新聞の記事皆軽侮の色あり。自分等が外国人に軽侮せらるる事は棚へ上げると見えたり。(中略)もし外国人の観光団百余名に対して同一の筆致を舞はし得る新聞記者あらば感心也。」

1909(明治42)年4月26日の記述。「朝鮮国に黒々と墨」をぬるのは、一年と四ヶ月後。漱石が今の世にいたら、どう日記に記しているだろうか。

府高退教セミナー報告

寺西文夫 (長野)

世界遺産登録を機に古墳群の本格的な学術調査を

7月26日(金)に考古学者の石部正志さんを講師に「百舌鳥・古市古墳群の世界遺産について」というテーマで話して頂いた。

セミナーは質疑応答を中心に進められ、大仙古墳をはじめ巨大古墳の多くが歴代天皇など皇室の祖先の墓である陵墓として宮内庁が管理し、文化財保護法の適用外とされて公開や調査が厳しく制限されているという大きな問題点があることが指摘された。



市民の力で守った「いたすけ古墳」

百舌鳥・古市古墳群が世界遺産に登録されたことを機に、世界の注目を集め、古墳の本格的な学術調査や国内外に発信することが求められ、宮内庁の対応が問題になる。

古墳の被葬者と築造年代の矛盾、前方後円墳の形について、近畿と九州の古墳の地域差など、様々な疑問が出され、丁寧に答えて頂いた。

関心を集めている問題だけに29人の参加者で盛況だった。

次回の府高退教セミナーのご案内

日韓問題での打開のカギは？ また、異常な日本のマスメディア報道の狙いは？

11月8日(金) 15時より 大阪府教育会館705室
講師は、飯田光徳さんです。

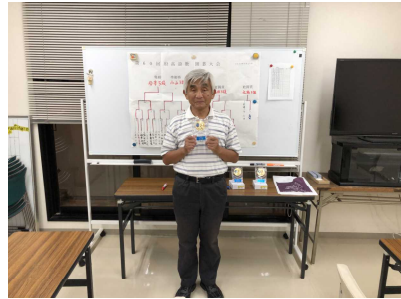
第60回囲碁大会 歴史を紡ぐ思い新たに

例年8月に行っている夏の囲碁大会を今年は猛暑を避けて9月25日に教文センター会議室で行いました。残暑は厳しかったものの空は秋晴れ、秋の気配を感じながら16人が1時から7時過ぎまで熱戦を展開しました。

この大会は、参加者の一人が対局前に「第60回」の節目に気づき、暫く懐旧談の花が咲きました。参加者も第1回から参加し続けて卒寿を目前にしている先輩、70代に入って棋力が上がったと自負する常連組、皆が喜び心から歓迎した初参加のOさん、Nさんなど多岐にわたり、歴史が着実に紡がれていることが実感されました。

初参加のお二人は長い間実戦経験がなく専ら棋譜を楽しんでいるとか、その割には棋力は申告以上で伸びしろの大きさを感ぜさせました。今、囲碁界は10歳のプロ棋士・仲邑菫ちゃん、「竜星戦」で惜しくも優勝を逃した高校生棋士の上野愛咲美さんなど新しい力が話題になっていますが、その新風はやがて退教囲碁界にも及んでくるかも知れません。

- 入賞者は以下の通りです。
- 優勝・谷本 昇五段 (泉南)
- 準優勝・小山英治五段 (農芸)
- 敢闘賞・木村祥明初段 (淀工)
- 敢闘賞・広瀬 晃二級 (布施)
- 奮闘賞・畠田博司三段 (久米田)



小山さん



谷本さん

菜園訪問&バーベキュー

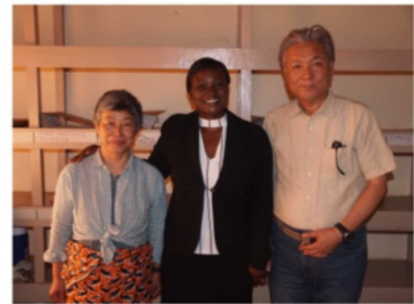
第10回「菜園訪問&バーベキュー」を下記の要項で行います。今年には交通の便のよい連山菜園です。3回目の訪問になりますが、菜園は高安山麓の旧村の一画・連山邸の裏庭にある文字通りの家庭菜園、それでいて野趣に富む菜園です。秋たけなわの一日、自慢の畑を見学し、BQと仙台風芋煮鍋(味噌仕立て)に舌鼓を打ち、適度なお酒も嗜んで、歓談のひと時を過ごそうではありませんか。ご参加をお待ちしています。

記

日時 11月7日(木) 午前11時半頃~3時頃まで
 場所 連山菜園(八尾市山畑349、近鉄服部川駅から徒歩5分)
 費用 1500円程度(バーベキュー・飲物代)
 参加連絡 参加される方は11月3日(日)までに次の世話人にご絡ください。菜園への経路は別途ご連絡します。
 高橋 貞雄 (Tel.0722-78-1072) 連山 豊 (Tel.0729-41-8794)
 広瀬 晃 (Tel.0744-27-6669) 村上 国利 (Tel.0721-24-8810)

アメリカ、マリアウイの旅 (その五)

勝間 眞(山本)



11月5日、甥の勤務するムセチェェルセコンドリーを見学する。まず校長に挨拶する。校長はバイタリティにあふれた女性で私たちを大変歓迎して下さった。見学が終わった後にジュースを出していただいたが、校長室に冷蔵庫は無く、ぬるいジュースであったが、厳しい暑さと乾燥の中で大変ありがたかった。

この学校はジャイカの支援もあって創設された学校である。そのため15億円の支援が投じられたと言われるが、校舎は全て煉瓦造りトタン屋根の平屋で、基本的には農家と同じ造りである。マラウイの学校はどこもこのような造りである。しかし、ムセチェェルセコンドリーでは最上級学年を除いて、教室に机もイスも全くない。1クラス約80人の生徒が全員床に座って授業を受けている。生徒たちにとって机・イスがないのは小学校からのことなある。教科書の無い生徒も相当いる。各自が英語の授業を聞いて、英語の板書を読み、必死で膝の上でノートをとっている。

朝8時から授業が始まり、約50分間の授業であるが間の休憩時間は無く、次の授業の開始時刻はまちまちになる。乾季には土ホコリで教室は汚れていて床に座ると制服が泥まみれになる。雨季には断続的にスクールのような大雨が来てトタン屋根を激しく叩き、その強烈な音で授業がしばしば中断するという。授業に迫っている間は授業料などの経済的負担・家の労働・遠距離通学などの困難が加わり、教育条件は日本とは比較にならない。

当面の日程

- 【10月】
- 11日(金) 12:00 三〇〇〇万署名 上六宣伝
- 11日(金) 14:00 第295回 幹事会705室
- 21日(月) 10:00 秋の退教 「女性サロン」JR大正駅 集合 大正の渡し (案内は森田さん)
- 23日(月) 12:00 シャンソンを 歌う会
- 【11月】
- 4日(月・祝) 13:30 謡を楽しむ会 茶白山画廊
- 8日(金) 13:00 第295回 幹事会705室
- 8日(金) 15:00 退教セミナー 「日韓問題とマスメディア」 講師は日本コリア協会理事長 飯田光徳さん
- 8日(金) 11日(月) 大退教ツアー 中国・西安
- 13日(木) 10:00 第22回大退教 囲碁大会 たかつ「ローズ」
- 15日(月) 12:00 シャンソンを歌う会
- 22日(金) 秋の散策(予定) 河内長野方面

*短歌を楽しむ会は11月もお休み

府高退助氏

門田向日子(布施) NO. 183

